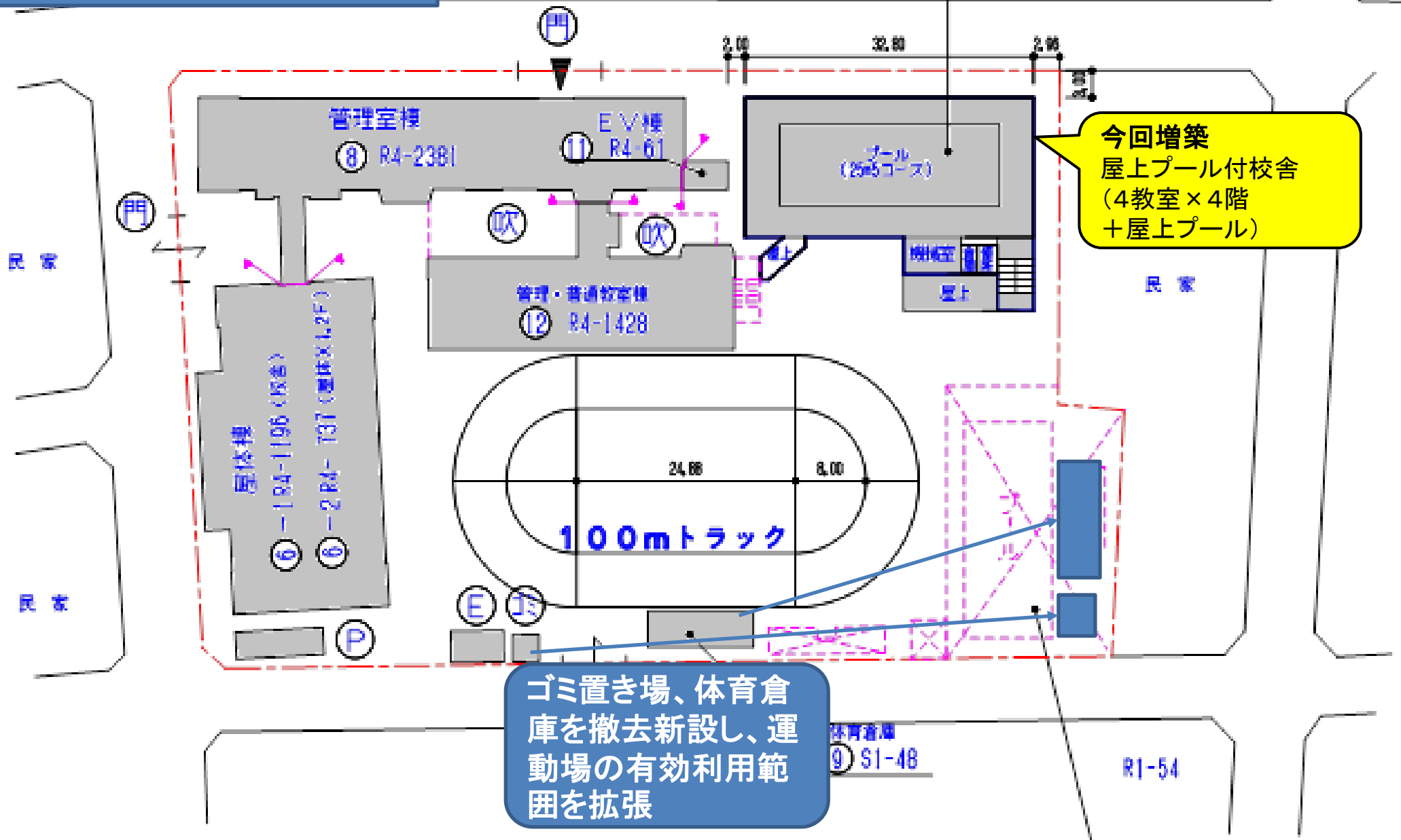


幼稚園用地活用案

○運動場 約3,500㎡



ゴミ置き場、体育倉庫を撤去新設し、運動場の有効利用範囲を拡張

幼稚園用地活用案

- 現在の西船場幼稚園機能を近隣の鞆幼稚園に機能移転することで、西船場幼稚園の跡地に小学校の校舎を増築し、不足する教室に対応します。
- スケジュール案
 - 平成29年度
増築校舎実施設計・幼稚園舎解体設計
 - 平成30年度～32年度
30年度末に園舎解体に着手し、32年度末までに増築校舎を完成
- 校地面積と運動場面積

	平成28年度	平成34年度
校地面積	約5,500m ²	約7,000m ²
運動場面積（地上プール含む）	約2,600m ²	約3,500m ²
児童1人あたり運動場面積	5.6m ²	3.7m ²

幼稚園用地を活用せずに校舎増築を行った
場合の児童1人あたりの運動場面積 → 2.1m²

現在の幼稚園用地を学校用地に
活用することで、面積が増加

幼稚園用地活用案のメリット・デメリット

メリット

- 現在の地上プールを校舎屋上に設置することや、ごみ置き場、体育倉庫を移設したり園庭部分の遊具等を撤去することで運動場面積が増加し、現在の80mトラックを100mトラックに改善可能となります。
- 既存校舎と各階を渡り廊下で結ぶため、児童の校舎間の移動がスムーズになります。

デメリット

- 西船場幼稚園を閉園せざるを得ない。
- 保護者説明会における主なご意見
 - 西船場幼稚園の128年の歴史と伝統を守るべき
 - 幼小連携がなくなってしまう
 - 検討する時間が短すぎる
 - 行政案でもなお、運動場が狭くなってしまう
 - 花乃井中学校区の各小・中学校について将来的にさらなる教育環境改善が必要になるのではないか
 - 韮幼稚園が手狭になってしまう

幼稚園用地活用案に対する行政見解

- 西船場幼稚園を鞆幼稚園に機能移管することを前提とした行政案について、「やむを得ない」とご理解いただき意見もありましたが、西船場幼稚園の存続を希望する陳情が大阪市会に出されております。
- 地域の幼稚園ニーズについては、西船場幼稚園の機能移管により鞆幼稚園に併設の施設を活用した施設整備を行うことで、鞆幼稚園の定員を拡充し、可能な限り地域の幼稚園ニーズに対応してまいります。

行政見解

- 西船場幼稚園の機能移転を伴うこと、たとえ移転しても西船場小学校狭隘化の抜本的解決にならないものの、平成33年度までに西船場小学校の教室数不足に対応するには、現実的な改善案は他にないものと考えます。
- これまでの西船場における幼小連携の取組みについては、できる限り継続してまいります。

西船場幼稚園機能を移管した場合（案）

近隣の幼稚園ニーズについて

- 西船場小学校区内及び校区周辺の幼稚園ニーズに一定対応する必要があります。
- このため、西船場幼稚園の機能を鞆幼稚園に移管することで対応してまいります。
- 鞆幼稚園については、併設施設である3階部分の活用を図り、多目的室などの活動スペースの拡充も検討し、6学級を確保します。

【西船場幼稚園の現況】

定員	3歳児：20人	4歳児：35人	5歳児：35人
実人員	3歳児：20人	4歳児：26人	5歳児：30人

【鞆幼稚園の現況】

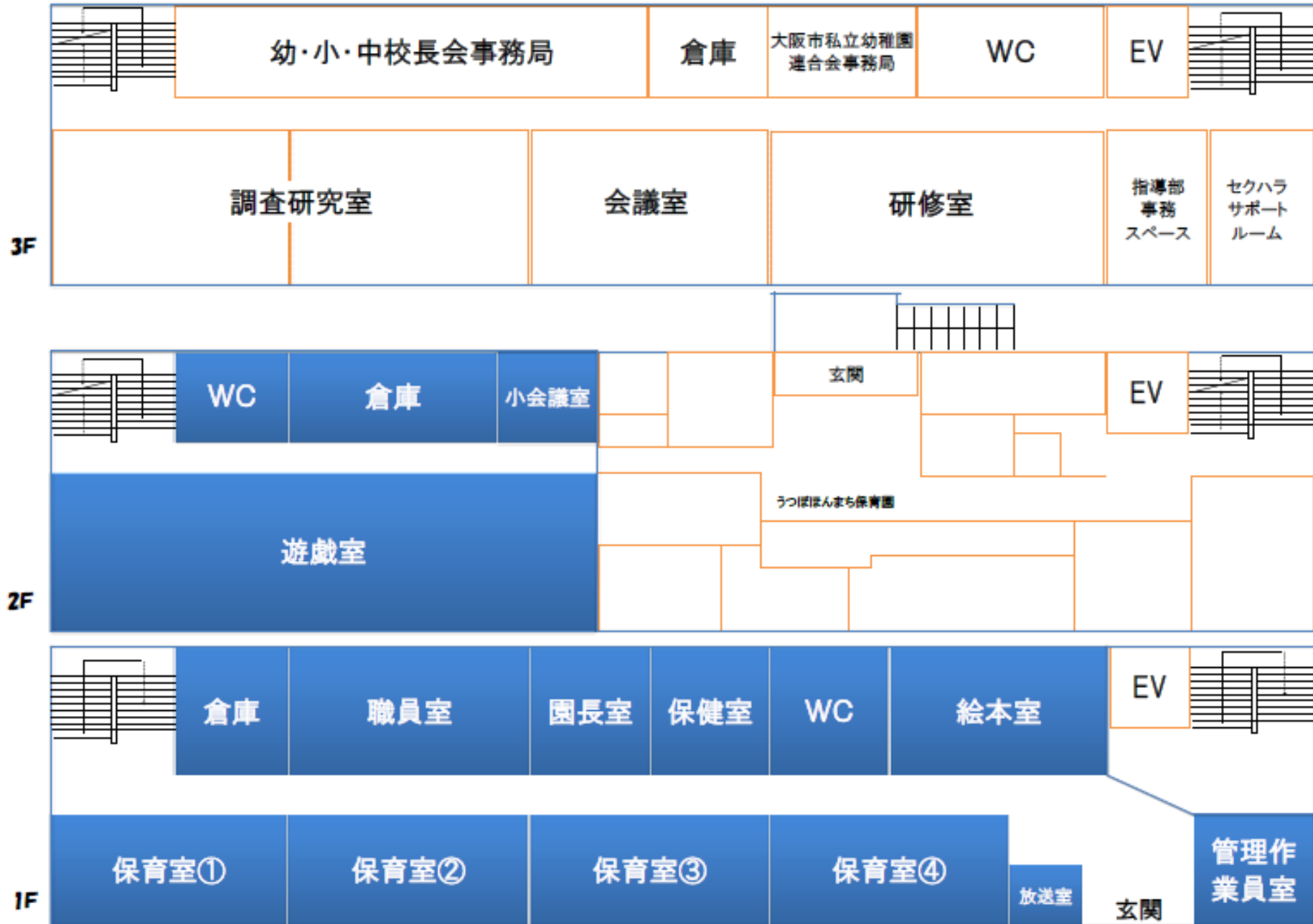
定員	3歳児：20人	4歳児：70人	5歳児：35人
実人員	3歳児：20人	4歳児：40人	5歳児：35人

【機能移管した場合の定員案】

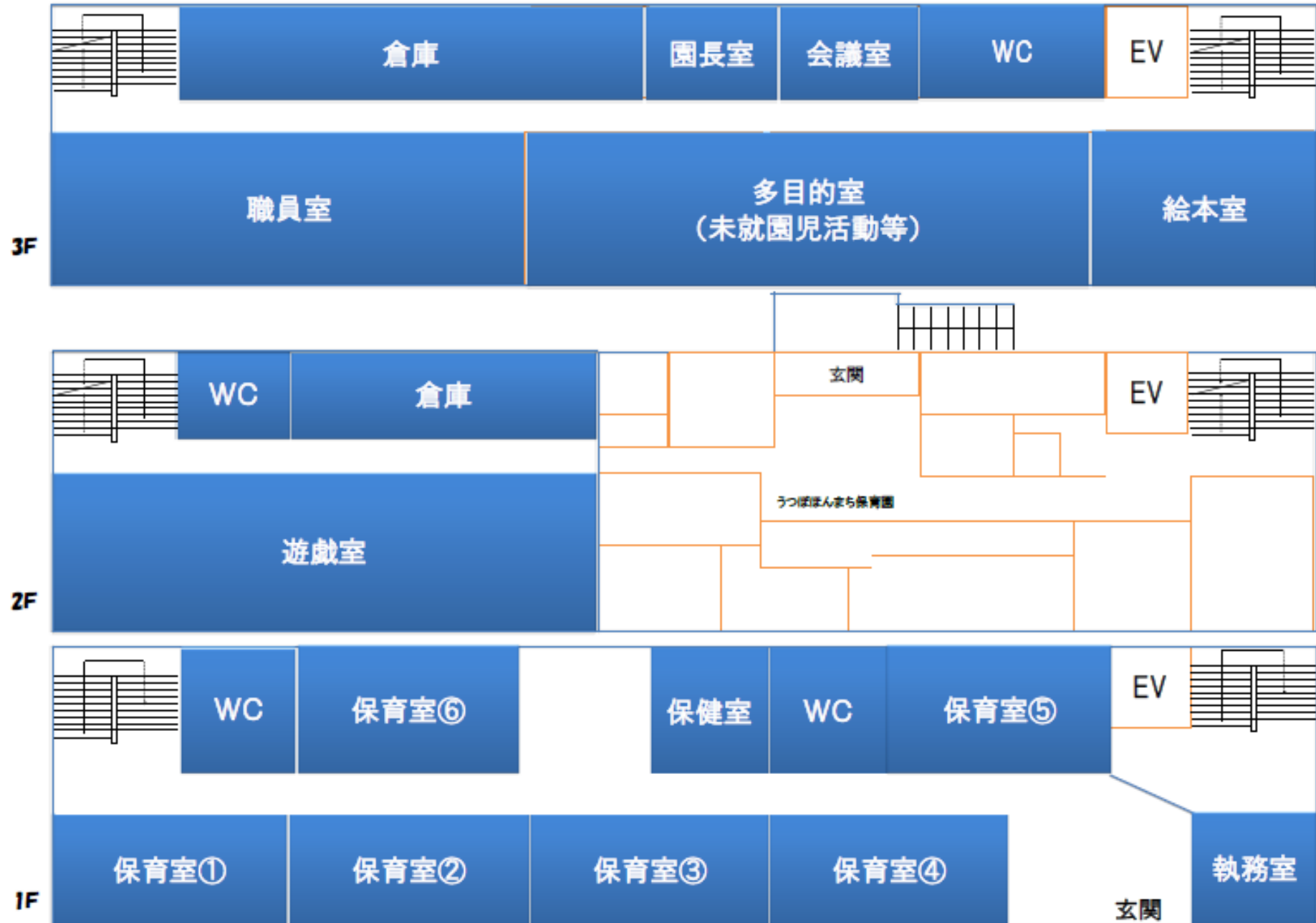
定員	3歳児：40人	4歳児：70人	5歳児：70人
----	---------	---------	---------

大阪市では通常3歳児クラスは、1学級20人を定員としていますが、この度の特別の措置として2学級設置し40人を定員としてまいります。

韮幼稚園の現状レイアウト



★ 韮幼稚園改修（素案）



韌幼稚園学級数増への対応（スケジュール案）

韌幼稚園において、園児の受入れを行う場合のスケジュールイメージ（案）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
西船場幼稚園	3歳児	4歳児	5歳児	西船場幼稚園で卒園	
		3歳児	4歳児	5歳児	韌幼稚園で卒園
			3歳児	4歳児	5歳児

西船場幼稚園の園児募集

- 園児募集は、継続します。
- ただし、現在の案では平成30年度末をもって閉園する旨を周知したうえで募集

- ☆西船場幼稚園閉園（平成31年3月）
- ☆在園児は、希望により韌幼稚園へ

西船場幼稚園の機能移管について

- 「これまでの幼小連携ができなくなる」、「今より幼稚園が遠くなる」、「西船場幼稚園の歴史と伝統が失われる」ことを懸念する意見をいただいております。
- しかし、西船場幼稚園を機能移管することは、幼稚園用地を小学校用地として有効活用することが可能となります。
- ★また、幼小連携については、西船場小学校との交流活動は、今後も可能な限り継続できることは取り入れていくとともに、韮幼稚園が現在行っている近隣小学校との交流活動とも合わせて、実施していきます。
- ★幼児が新しい幼稚園の環境で、安心して生活を送れるように、幼稚園間の交流も計画的に進めてまいります。

靱幼稚園を6学級にした場合

① 園児にとって

- 3、4、5歳児の異年齢交流をする機会が増え、思いやりや憧れの気持ちがはぐくまれる。
- 同年齢クラス間の交流も増え、活動の充実やいろいろな友達の考え方に触れる中で、自分の思いを伝える機会や友達の意見を聞く機会が増え、広くコミュニケーションをとって生活できる。
- クラス替えができることで、友達関係が広がる。

② 保護者にとって

- P T A会員が増え、活動内容の充実につながる。
- 近隣の知り合いが増え、子育ての相談や親同士のつながりが広がる。

③ 園の運営にとって

- いろいろな教師の保育実践を学べることから、指導力の向上と教育内容の充実につながる。
- 教職員が増えると、各教員の専門分野や経験年数に伴った、広い視点で幼児理解ができる。
- 一人当たりの事務分担が少なくなることで、教材研究、保育準備の時間が増える。

①園児の数が増えると、安全面での心配が大きくなる

(対応策)

- 教員数も増え、より多くの目で子どもを見守っていくとともに、★各教職員が日々安全に対する意識をもち、教育実践をすすめていく。
 - ★園内の安全点検を定期的実施し、園児の動線に配慮した遊具等の配置などを工夫する。
 - ★安全に楽しく遊ぶことについて、クラスで話し合ったり、集会等の機会を作って指導するなど、繰り返し意識づけていく。
 - ★活動のねらいに応じて、クラスや学年、全園児でなど、活動内容や時間の配慮を行っていく。
- 間近にある韮公園の豊かな環境を、より一層教育活動に活用する。
 - ◆自然にかかわる活動：季節の花々を鑑賞する。虫探しや木の実拾いをする。
 - ◆体を動かす活動：散歩、鬼ごっこやかけっこ、グラウンドでの運動遊びや凧揚げ
 - ◆人とのふれあい：小学生との交流活動、保護者や地域の人とのふれあい活動
- 学生ボランティアのさらなる拡充を図る。（現在は、月曜日・金曜日に各1名）

等、計画的・継続的に実施する。

②保護者が一斉に集まる行事等において（参観、総会、始業式、終業式、運動会など）で施設が手狭になる

（対応策）

- ・状況により園庭中央にある、土山を撤去するなど、広く使える工夫をする。
- ・行事、参観を午前と午後あるいは複数日を設けるなど分けて行えるようにする。
- ・運動会は、鞆公園グラウンドを借りるなど実施場所を変える。
- ・学年や組単位でミニ運動会等を行い、園庭の活動の様子も参観できるようにする。
- ・保護者が参加の会（総会等）は、200名は収容可能。

③登園、降園時の混雑や自転車での登降園する保護者が増え、駐輪場の確保が難しい

（対応案）

- ・徒歩通園の奨励、啓発をする。
- ・登園時間の幅を広げる。
（現在8:45～9:00を8:40～9:00に5分延長する）
- ・現在の駐輪スペースにある倉庫を整理して駐輪スペースを拡充する。

西船場小学校の教育環境改善に向けた方向性

- この度の計画案につきましては、児童数の増加見込みから平成33年度までに校舎増築を完成する必要があります。
- このことから西船場小学校及び西船場幼稚園・靱幼稚園のほか関係する地域など、取り巻く状況を客観的に勘案すると、西船場小学校の教室数不足を解消する現実的な案は、西船場幼稚園を靱幼稚園に機能移管し、その跡地にプールを屋上に設置した校舎を増築する案が、基本的な方向性としては妥当と考えています。
- しかし、西船場幼稚園の機能移転を前提とした幼稚園用地活用案について、地域・保護者の方に賛否両論があること、また幼稚園用地活用案に対して反対意見をお持ちの方でもご意見の内容が様々な状況になっております。
- 学校設置条例の改正案を平成28年11月30日に大阪市会に上程しており、12月7日の教育こども委員会で議論されましたが「引き続き慎重に議論すべき」として、現在継続審議となっております。